

令和4年度第1回江差町総合教育会議 議事録

開催日時：令和4年12月22日 16時20分～

開催場所：庁内会議室

出席者：照井町長、太田教育長、加澤委員、高岡委員、中野委員、小笠原委員

説明員：長尾学校教育課長、大島指導主事、安田社会教育課長

長尾学校教育課長：

それでは、ただいまより令和4年度第1回江差町総合教育会議を開催いたします。皆様には12月定例教育委員会に引き続きご出席いただき、たいへんありがとうございます。そして、お疲れ様でございます。

早速会議を始めていきたいと思いますが、ご案内のとおり、本総合教育会議の開催趣旨といたしましては、今年8月に照井町長が就任3期目に入りましたことから、改めて町長と教育委員会が十分な意思疎通を図って、地域教育の課題やあるべき姿を共有して、3期目に掲げた公約を踏まえた率直な意見交換を通じながら、より町民ニーズを反映した教育行政の推進を図るために、お集まりをいただいたところです。

お手元のレジュメに従いまして会議を進めさせていただきますが、全体通して1時間くらいでまとめていきたいと考えています。ぜひ忌憚ないご意見を下さいますよう、ご協力よろしくお願いいたします。では、はじめに照井町長よりご挨拶をいただきます。町長よろしくお願いいたします。

照井町長：

皆さんこんにちは。大変お忙しい中でありますけれども、令和4年度総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。3時から教育委員会が開かれていたということですが、活発な議論をいただければと思います。

今日、私は教育の日という感じがしています。午前中には江差高校の教頭先生が来てお話をさせていただきました。案件につきましては、まちづくりについて江差高校が地域の中の人達から学ぶというようなことをやっていてその報告と、来月1月には高校生の1グループと私が意見交換をする場を作ってくださいということで、打ち合わせのために話をしました。特に中心は中高生の居場所づくりということで、今江光ビル跡地でやっている意見を高校生が直接町長に伝えたいということがありましたので、伺ってよかったと思っています。事前に打ち合わせをしたようですけれども、いろいろ意見を出しながら考えているところなので、非常に楽しみなところでございます。また、今日お昼から江差北中学校に行ってきて1時間ほど生徒の皆さんの前でお話する機会をいただきました。生徒の前で1時間も話すというのは緊張しながら、地域のことと私自身の人生について中学生に伝えたいことを伝えて欲しいということで話をさせていただきました。1時間のうち50分ほどお話をして10分ほど質問を受けるという流れになっていて、大人しい学校だとあまり手は上らないんですけども、時間を打ち切るまで生徒さんからいろんな質問を受けました。中には町長が好きな人のタイプはどういう人かという質問もあったりして、保護者と変わらない世代なのにそういった質問が来て苦慮しました。

さて、今事務局から説明がありましたけど、この8月に3期目の町長としての任をいただくことになりました。

その中では子ども達における教育環境を特に充実させていきたいと思っておりますが、子育て支援だけではなく、子ども達の意見や考えを町政に反映させたいと思っております。その中でも先程の江光ビル跡地もそうですけども、例えば学校の遊具に子ども達の意見を取り入れるということをやっています。また、運動公園もテニスコートを半分中高生が遊べる広場に変えたいと思います。そのことについても先般、江差中学校に出向いて生徒会の皆さんから提案をいただきました。バスケとフットサルをできるようなものにして欲しいという要望でした。それを叶えていきたいなと思っております。

子どもの数が減少にある中でどうまちづくりを進めていくか、人口減少対策に対する考えを新聞社が取材をしていったんですけど、真似事ではないかという指摘を受けました。私は決してそうではないと思っていて、子育て支援をしっかりとっていくこと、子ども達が健やかに生活できることが人口減少対策につながると思っています。真似事というのはきっと隣の真似事ということだと思うんですけど、私達は人口減少対策で争うべきは隣町ではないと思います。隣町とは連携しながら地域全体を生かしていく、札幌や函館圏の多く人口が流れている都市部よりも教育環境を上げていく、そういったことが私たちの町にとって特に転勤族も多い町としては大事なのではないかと考えています。教育にしっかりと力を入れていきたいと思っておりますので、今日は皆さんの様々な角度からのご意見をいただければありがたいなと思っております。よろしくお願い申し上げます。

長尾学校教育課長：

ありがとうございます。

では、ここで意見交換に入ります前に、総合教育会議の設置趣旨と役割について私の方から若干説明させていただきます。資料1をご覧ください。資料に書かれていないことも申し上げますので、私の話に耳を傾けていただきつつ、資料に少し目を向けていただければと思います。

ご承知のとおり平成27年4月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行されました。この法律は、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに地方に対する国の関与の見直しを図るものですが、改正のポイントは3点ございました。

一つ目は、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」を設置することです。この資料の上段「旧法の問題点」の①②に対応するものです。これまでは、教育委員長と教育長のどちらが責任者かわかりにくい、教育委員会の審議が形骸化している、あるいはいじめ等の問題に必ずしも迅速に対応できていないといった課題がありました。こういった課題解決のために、首長が直接、新教育長を任命することにより、任命責任が明確化しました。また、新教育長の任務については、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表、この代表というのは、教育委員会会議の主宰者となること、教育委員会事務局の具体的な事務執行の責任者となること、事務局の指揮監督者であることを言いますが、そういうことを定義づけたことで、第一義的な責任者が教育長であることを明確にするとともに、緊急時にも常勤の教育長が教育委員会会議の招集のタイミングを判断できることになり、問題が起きた際にも迅速な対応が図られることになりました。

二つ目は、すべての地方公共団体に「総合教育会議」を設置すること、三つ目は、教育に関する「大綱」を首長が策定することです。旧法の問題点の②③に対応するものです。これまでは地域住民の民意が十分に反映されていない、首長があまり教育に口を出さない方がいいかという遠慮、あるいは予算の権

限を持つ首長はどう考えているのかなという暗黙の了解というか、そういった状況・課題が指摘されておりました。それらの課題を解決するため、「総合教育会議」を設置することにしました。総合教育会議ができることで首長が教育行政に果たす責任や役割を明確にするとともに、首長が公の場で教育政策について議論することを可能としました。そして首長と教育委員会が協議・調整することにより両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたることを可能としました。さらに、教育大綱の策定についてですが、大綱は、首長と教育委員会が総合教育会議の場において協議・調整を尽くして、首長が策定します。現在の大綱も、令和2年度、3年度の2か年にわたり、仕上げていただきました。そうして策定された大綱については、首長と教育委員会が、定められた理念や方向性に基づいて、それぞれの所管する事務を執行することになります。

以上が、総合教育会議の設置の趣旨と役割についての概要でございます。資料1の2ページ以降は、この改正法と町の総合教育会議の設置要綱を参考までにつけましたので、後ほど読んでいただければと思います。

今申し上げましたとおり、江差町の行政における計画の体系では、あらゆる行政分野の個別的計画の最上位に第6次総合計画を位置づけておりますが、教育大綱は教育施策の最上位計画に位置づけられます。教育推進計画については、総合計画や教育大綱に掲げられた理念や方向性を具現化する計画という位置づけです。これ以降はざっくばらんに意見交換していただき、目指すべき方向性の一致を見出していきたいと考えております。これらの資料は、お手元に資料2から資料5として配付しておりますので、どうぞ、みなさんよろしくお願いいたします。

それでは、これ以降の意見交換の進行を設置要綱第4条に基づき照井町長にバトンタッチしたいと思います。教育長には、照井町長の進行サポートにあたっていただきたいと思います。

照井町長、よろしくお願いいたします。

照井町長：

では、よろしくお願いいたします。

いきなり任されると何を話していいか難しいところでございますが、江差町の教育行政の推進ということで、まず私から少し、今何を考えているのかどんなことを進めようとしているのか説明させていただきます。その上で皆さんからご意見をいただければと思っております。

先程も申し上げたとおり、子育て支援、教育環境の充実というものをこの3期目4年間の中でまちづくりの中心に教育を据えていきたいと思っています。そして人口減少への対応についても転勤者の多い町という特性を生かして、そういった人たちが単身ではなく子どもを連れて家族で移って貰えるような環境を作っていきたいと、そのためにはどうしたらいいかということをまず考えていきたいと思っています。それには子育てしやすい環境をつくること、またもう一つは住環境も整備していかないといけないのかなと思っています。私自身が感じたことの一つとして、転勤族で来て組織が持つ住宅のある所はいいんですけど、そうではない人たちの転勤者というのもあるので、民間の探した時になかなか子ども連れで住むには供給が不足しているのではないかなと心配をしております。また、もう一つの観点として、人口減少ではない考え方ですけど、教育としてどういう考え方を持つのかと考えた時に、特に義務教育の部分で所得の格差が教育格差につながってはいけないと思っています。子ども達が学ぶ機会を均等に提供するというのが我々義務教育を任される行政に与えられた使命なのではないかと思っています。能力のある子を伸ばしていくのも大切ですけど、行

政が考えなければいけないのは厳しい状況に置かれている子ども達をしっかりとサポートしてセーフティーネットを作っていくこと、これが大事ではないかと私は思っています。例えばいじめの被害であったり子どもの貧困であったり、そういうところを少しでも改善していくことが大事ではないかと感じていて、3期目の公約を組み立てたところです。旭川の方では子どもがいじめによって自殺するという案件がありました。こういうことが江差町内であってはならないですし、それを防ぐためにはどうしたらいいのか我々が考えていかなければいけないと思っています。その中で例えば低所得世帯の学習機会の支援というところも行ってきました、拡大をしたいと思っていますし、給食費無償化は実施したところでございます。

あともう一つ、具体的なものではないのですが、子どもだけの話ではなく社会教育の分野、特に開陽丸の活用を考えていかなければならないと思っています。今年度は久しぶりに開陽丸の水中にある遺跡の調査をしました。少し傷んでいるような箇所もあると聞いていますし、水中にある遺跡をどう生かしていくのか保存していくのかということも考えていかないといけないですし、歴史的魅力のある財産をどう活用して地域の活性化につなげていくのか、運営している開陽丸記念館をどうしていくのか、そういったことも考えないといけないと思います。様々な角度から皆さんのご意見を伺えたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

いろいろお聞かせいただければと思うのですが、高岡委員いかがですか。

高岡委員：

ちょっといつも気になっていて教育委員会の中でも何度か話していて、さっきも成人式のことを聞いたり要望言ったりしたんだけど。コロナの感染が影響した中で思った方向にはいかないから了承してくれと言うことだったけど、自分が成人の人間だったら、または自分が成人の子どもがいる親だったらとそういう見方をすると、あれでいいのかないつも思ってる。もっと新成人にスポットを当てるような工夫はできないか、ステージに一人ずつ上げるとか、町長ご存じのとおり小中学校の卒業式なんかでは人数少ないから一人ずつマイク使って中学校行ったら部活頑張りたいとか一言喋ったりするので、あんな形式でもいいからスポットを当ててやったら、何時間も時間かけて準備してただ座ってるのもどうかと思ってたものだから、町長として成人式に対してどう考えているかその辺を聞いておきたい。今のままでいいと考えてらっしゃるのか、こうなって欲しいと考えがあるのか、その辺も我々としては取り入れていけたらなという部分を含めて何かあればお話いただければと思うのですが。

照井町長：

ありがとうございます。高岡委員から成人式についての考え方ということをいただきましたが、コロナでなかなか厳しい状況があることも含めてのご意見だったと思います。例えば新成人に一言ずつ話をして貰うということは、隣の上ノ国町は成人式でそれをやっています。そういうのを見るとやり方はあるんだろうなと思っていて、特に100人も200人もいる成人式ではないので、その時間を取ってやるのはいいことなのではないかと思っています。ただ、成人式は教育委員会の主催で私は主催者側ではないのですが、行政としては一緒という考えもありますけども。私は新成人にとって思い出に残る節目であって欲しいと思います。やはり成人式に出席してくれる人は少なからず江差を故郷だと思ってきている。だからこそ江差の成人式に出席してくれていると思っています。非常に大事な場面ですし、私自身も成人式の挨拶は1年間で一番気合を入れて臨んでいます。もちろん厳かな成人式もいいでしょうけど、やはりもっとそういった新成人にスポットが当たった成人式ということでご意見を伺いまして、今年度はどうですかね、もう準備を始めているでしょう

から難しいかもしれませんが、そういった工夫をしてもいいのかなと思いますので、教育長ともお話ししながら成人式の在り方というのをやっていきたいと思います。成人式気合を入れて話して、今はSNSの時代ですから今年1月にあった成人式の後にはSNSを使って5人の新成人から町長に感謝と、恐らくその5人が集まって送ってくれたんでしょうけど、やはり新成人にとっては大事な節目の場面なのだと、もっと思い出に残る式をやっていきたいと思いますので、いただいたご意見を踏まえながら今後対応していきたいと思います。ありがとうございます。

高岡委員：

いつも思ってたんですけど、町長にとって成人式って特別なのかなって見えてたんですよ。コロナであれも中止これも中止で他町も中止してる中で我町だけはこれはやるんだって雰囲気を感じていたので。

照井町長：

ある意味では、我々大人になるともう毎年のルーティンの中で成人式どうするとか考えますが、新成人にとっては人生で一度きりしかない場面なので、それは不要不急ではない大事な場面だと思いますし、中止にすべきではないと思いました。

加川委員、何かあればお聞かせいただきたい。

加川委員：

はい。学校の見学とか行かせていただいて、自分の子どもの子育てが終わった段階でもう学校に行くことはないと思ってたんですけども、こういう立場になって改めて教育というのはすごく大変なんだなということを、それなりに小さい規模の学校だったのでPTAの役員とかいろいろやってきて半ば分かっていたつもりだったんですけども、情勢が変わってきて学校の中も大変なんだというのが身につまされたところです。

照井町長：

ありがとうございます。町内で子育てをされたということで、その経験を生かしながら教育行政の中で教育委員の立場として様々な感じることをお聞かせいただけたらありがたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

加澤委員、よろしいでしょうか。

加澤委員：

町長の方から3点ほどお聞かせいただいたんですけど、前段階の教育委員会の中で学校教育と社会教育の方から来年度に向けての予算について聞いたんです。それでまず1点、低所得者向けの学習支援って話されてましたけど、低所得者向けっていうのは今実際にやっているんですか。その効果を知らせて欲しいんですよね。

照井町長：

はい、昨年度から始めた、非課税世帯と生活保護世帯の方達に月1万円、学習ドリルを買うとか通信教育をやるとか塾に行くといったことに対して月1万円を上限に支給をしています。利用しているのが7人

か8人、学習に特化した制度設計です。ただ、やはり部活動であったり習い事などに掛かる経費に対しても対応していきたいと思っていて、学習だけでなく運動や習い事にも範囲を広げていきたいと思っています。

加澤委員：

すみません、質問なんですけど、例えば塾に行って塾の月謝が6千円だったら6千分を支給しているということですか。

照井町長：

はい、そうです。

加澤委員：

さっき学校教育課長の方から学校のAIドリル導入の話があったんです。非課税世帯や生活保護世帯、個々人の家に掛かった実費の上限1万円以内をお支払いするというのは分かったんですけど、AIドリルってその子どもの習熟度に合わせたっていうのをさっき聞いたものですから、AIドリルの導入っていうのをやっていただくと確かに低所得者の方も恩恵受けるし、所得に関わらずレベルの高いところの学習も望めるんじゃないかなと思ったんです。私はAIドリルの導入を進めたらどうかと思ったんですよね。それがまず1点。

それと、私、教育っていうのは学校教育だけではないと思っているんです。教育大綱の中でも最後に社会教育の話題も追加したっていうのがあったんですけど、そういう意味でも、今回開陽丸のことで歴史的価値のあるものを保存していくっていうのは、そういうところに力を入れていくのは観光にもつながるというメリットもあるので、ぜひ活用していただきたいなと思います。

あと、社会教育という意味では図書館のバスの話も説明あったんですけど、生涯教育という意味でも図書館バスがなくなったことで不自由されている方もいると思うので、バスの写真も見せていただいたんですけどコンパクトで職員も運転できるというメリットもありますし、そちらの方もぜひ入れていただきたいと、この3点を推したいと思います。

照井町長：

ありがとうございます。多岐についてご意見いただきましたが、個別にお話させていただきたいと思います。

AIドリルの導入について、今年度は予算つけずに保護者の方にご負担いただいて試験的に導入したと聞いています。これを全町に支援して広げていくのかというのを今見極めたいなと思っています。効果がしっかり見える物であれば導入したいと考えておりますし、もし違う方法があるのではないかなということになれば違う方法を考えたいということで、今その検証をして新年度どうするかというのを考えているところでございます。いただいたご意見を踏まえながら今後の判断に生かしていきたいと思いますので、ご理解いただければと思っています。

次に、開陽丸など歴史的価値のあるものをしっかり力を入れてやって欲しいというなお話でしたが、江差町の人口規模にするといろんな文化財がある町で、これをいかに活用するかが問われていると思います。良いものを残していくためにも活用していかなければいけないと思っています。有形無形両方そうですけど、皆さんにその価値に気づいて貰って一緒に盛り上げていただく、そして江差のまちづくりの柱にしていこうと考えていきたいと思っています。民間が所有している有形の文化財の問題もありますし、あるいは

無形の文化財でも後継者が不足していて途絶えていくのではないかと危惧している文化財があるとも聞いています。そういうものを絶対なくしてはいけませんし、過去には江差獅子舞というのがあったそうですが、そういうものが消滅してしまって継承できていないというような話も聞いていますので、そういうことにならないように、今ある文化財をしっかりと保存しながら活用し、後世にバトンタッチしていくことを考えていかなければいけないかなと思っています。

3つ目図書館バスの話でございます。今まであった図書館バスは替えさせていただくという形を取っています。私自身が感じるのは、図書館バスで本を運んで提供するのも大事なのですが、図書館に来やすい公共交通を整えることも大事なんじゃないかなと思っています。もちろん、なかなか行けずに読みたい本があった時に持ってきてくれるっていうのも大事かもしれないですけど、やはり、私の個人的な考え方かもしれませんが、本を見て手に取って読んで貰うっていうのも楽しみなのではないかなと思ってまして、図書館バスの役割と同時に図書館に行きやすい公共交通を作っていく、また、皆さんが利用しやすい時間帯なのか、少し夜間に時間を広げたりしてますけども、もっとそういう時間を多く作るべきじゃないとか、図書館に親しみ様々な機会をどう作っていくのかということを考えていかなければいけないのかなと思っています。ただ、図書館バスの大切さというのは今加澤委員からお話を聞いて気持ちとしては伝わりましたので、今後また運用としてはどうしていくのかということを考えていきたいと思います。ありがとうございます。

では小笠原さんお願いします。

小笠原委員：

小学校2年の子どもがいるんですけど、うちの子どもが小学校に上がった時の生活の変化ということでなかなか学校に行きたがらなかったんです。保健室にいる養護の先生が何か、日常の話をしてくれる人を通じて段々学校に行けるようになったんですけど、たまたまコロナに罹ってしまって2週間家にいたのかな、また行き渋りになっちゃったんです。その時にも養護の先生助けてくれて、学校には教育の先生だけでなく生活指導という形の先生も必要なのかなと思ったんですけど、うちは依存していたので、個人的な出費で負担もあるのかなとちょっと思いました。

もう1点、仲のいい子たちが転勤するんですよ。親御さんが転勤族で、子どもを連れてきて江差を楽しんで暮らしてくれてこちらも嬉しくて。だから転勤族が子どもを連れてくるって話がありましたけど、行政としては何ができるのかっていうことを教えていただきたいなと。

あと最後に個人的なことなんですけども、開陽丸、遺跡はすごく重要性あるんですけど、そのほかに海底に沈んでいる遺跡がヘドロ被っていて、実際スキューバで見てみたいねって話してたんですけど、そういった意味で何か開陽丸の所を見れるとか、何か活用できたらと期待しております。以上です。

照井町長：

はい、ありがとうございます。ご自身の経験からということで3点お話いただいたんですけども、1点目のお子さんの状況を見ながら学校の先生の負担があるのではないかなということで、小学校に上がる時の変化は非常に大きいんだなと感じました。私は子育てした経験が無いので大変さというのはなかなか実感できないことですので、今の話は非常に私自身も気づかされましたし、配分を考えていかないといけないかと思います。たまたまですけど私、南が丘小学校の目の前に住んでいて、校長先生が毎日学校の前に立って雨の日も雪の日も子ども達が登校するのを見守っているという場面も見て、学校の先生の負担って目に見える

所だけではなくて、それ以上のことを皆さんやって大変な思いをされているんだろうと、それが子ども達のためになっているんだろうと思うと、先生達の環境を良くするということも子ども達にとって大事な事かと思いました。ありがとうございます。

また、先程お友達という話で転勤者の方のお話をいただきました。まずは転勤していただく環境をしっかり整えることが行政として求められていることかと、またその環境がいいということをPRしていかないといけないのかなと思っています。江差に来るとこんなことができますよと、ある意味では今厚沢部町で保育園留学というのをやっていて非常に好評だと聞いていますが、短期間でということですけども、江差は3年とか少し中期的な留学という形を作って行けばいいなと思っています。都会ではできないことを江差では用意できますよということをPRしていければいいのではないかと考えていて、都会ではできない体験の教育サポートをどう差別化していくのかということが必要なのではないかと、このことを進めていけばそれが転勤者だけでなく移住を考えてくれる方にも伝わるのではないかと考えていて、環境を作りながらPRをし、そういう人達が楽しめる、子どもを持つ世帯が江差に転勤をしたいと思って貰えるようなまちづくりを進めていきたいと思っておりまして、様々な手を打ってこうと考えています。

3点目の開陽丸の水中にある遺跡のお話ですが、実は昨年、前澤友作さんという方が自治体に8億円を寄付するふりさと納税をすると、案がないかという出た時に海中博物館を作りたいということで、海の中にある遺跡をどう活用していくのかと考えると、楽しめるような仕組みってどうなのかと若い職員が考えてくれたのですが、8億円いただけなかったので実現できないんですけど、去年の段階ではまだ潜ってみる状況ではなくて、今年潜ってみたらヘドロがという状況でもあるので、その保存の部分を見極めながら活用、今の技術を使えば中も見れるような可能性としてはあるのではないかと考えています。同時に、現在の大きさで再現した開陽丸記念館展示施設がありますけども、そこも組み合わせで魅力あるものにしていくことも考えていかなければいけないと考えていて、話題になるのは外観が非常に傷んでいると皆さん心配なさるんですが、それだけではなくて中のコンテンツ、歴史的価値のあるコンテンツをどう魅力を上げてこの時代の中で価値あるものに感じて貰えるような仕掛けを作っていくのかということを考えていかなければいけないと、ただハード面をきれいにするだけでなく中のソフトをしっかりと魅力あるものに変えていきたいなと思っています。今海の中に眠っている遺跡と組み合わせでどう仕上げていくのかということを皆さんと一緒に考えていきたいなと思っています。

答えになったかどうかちょっと不安ですけども、そんなことを考えながら町長をやっているというところでございます。今お一人お一人皆さんからお話を聞いたわけですけど、それに付け加えて、あるいはまだ言い足りないということがあればお聞かせ願えればと思うんですけど。

高岡委員：

あの、今ちょうど開陽丸が国の事業と連動した形で、今回の教育委員の会議でもクローズアップされたんですが、その開陽丸、海中遺跡だとか開陽丸を生かすためにも、今中途半端になっている横山家、それから神社がこういう歴史的な連携を取っていかないとそれぞれが生きていけないんじゃないのかなと。開陽丸だけでは弱い部分をそういったものでフォローしていく、教育委員の会議の中でも横山家このままでいいのかと、必要なか必要でないのかどうすべきなんだっていう議論もしてきている中で、このままでいくと第2の金丸家になってしまうんじゃないか、金丸家も補助金で外壁や屋根を直して、玄関越しにぼろきれを下げて中が見えるような見えないような状態、このまま放っておいたらいつか朽ちてしまう。横山家もいつか後ろのハ

ネダンが、もう真っすぐなところないですよっていうぐらいになっているので、ここでこれらを何かしら行動起こしていかないと、前に聞いた時には人様の財産なのでなかなかという話を聞いてはいましたけども、人様の財産だからこそ頭を下げて頼む、町のために協力して貰いたいっていうお願いをするなり、金額を提示しているならば必要なら払ってでも手に入れて観光事業に連携を取るとか、開陽丸を生かす、文化会館が素晴らしいのはこういう歴史があるから、こんな建物があるからというふうにしていくべきじゃないのかなと思うので、町長の考えもお聞きしたいなというのが一つと、それから学校給食センターが新しくなってアレルギー対策だとか衛生面だとかすごく良くなったなと。この間孫がちらっと言ってたんだけど、新しい給食センターになったらコッパンしか出なくなって詰まらないうとそんな話をしていたので、レーズンパンだとか違うパンも出してやればいいのになと、何か事情あるのかなというふうには思ってたんだけど。それと同時に米飯を提供できるようになったということで、先日商工会という立場もあるので、地元で米の販売しているからと教育長にお願いしたけど相手にされなかったと泣きついてきて、商工会で何とかしてくれという話があったので、私の立場から言えば教育委員なのでここで議論することもできますよという話で、ただ給食組合というのは教育長と委員が上ノ国から出て組織決定している部分もあるので、ここでは決められないよという話もしながらふと思ったのは、地元の生産した米を地元の業者が売るといってこんな単純な地産地消の仕組みを、こんなにあちこち頭下げて歩かないと買って貰えないのかっていう、その仕組みに疑問を感じたんです。というのは、商売人にしてみれば明日は我が身なんです。地元で生産した米で地元で売ってる米を買って貰えないっていうのは、我々商売してると、うちの油も買って貰えないのかうちの印刷も使って貰えないのかという疑問が出てくる。町長ご存じのとおり、札幌だとか函館クラスになると地元商品というのが6割7割っていう割合を占めて経済が街の中で動いている。でも我々のような小さい町になるとどうしても函館から仕入れる、札幌から買ってくる、お金を外に出さないとならない。そうすると地元商品というのは1〜2割程度でどんどん経済が枯れていってしまう。それを解決するためには、どこの町でも叫んでる地産地消っていう部分から入って行って、地元商品っていうものの数字の割合を上げていかないと経済が動いていかないっていう。ところが現実を見ると、地元の米がどこに売っているのか分からない、販売してる人の米を買って貰えないって、何でこんなふうになるんだろうっていうのがすごい疑問なの。もう少し地産地消っていう部分で地元商品もレベルアップして行って欲しいなと思うんですけど。

照井町長：

はい、ありがとうございます。今2点ご意見いただきました。横山家の問題は長年の課題ではあります。一方で老朽化もかなり進んでいる建物ですけども、やはりご家族あっての、ご意向があつての判断かなと。そこにくれくれというのはちょっと違うかなとも思ってます。やはりそれは、まちづくりに生かすというのは大事だと思うんですけども、財産を文化財を管理していかなくちゃいけない、その覚悟の下にやっていかないといけないという中で江差町のスタンスとしては無償で提供いただいてその活用を考えていく、それをお金を出していくということは、じゃ金丸家はどうするんだとか文化財は他にもある訳で、その兼ね合いもあるので歯止めがきかなくなるのではないかと考えています。その中では覚悟を決めて無償で譲りうけた時にはしっかり活用を考えながら責任を果たしていきたいと思っておりますけれども、今の段階で有償でお受けするという考えは私としては持ち合わせていないというのが正直なところですよ。

神社の問題というのはどういう問題ですかね。

高岡委員：

神社とかあいう建物。神社はすごく空間的に観光に生かしていきたいという、神社はついでに言っただけで金丸家ですね。横山家と同じように。あくまでも人の財産だから向こうの意向でというのは分かるんだけど、黙ってたら横山さんの方々が正月全員集まって話をしてくれる訳でもなく、皆ばらばらに住んでて誰かがやるんだろうと思ってるだけじゃないのかなって。だからこそこちから行動を起こして江差町の想いはこうなんだ、横山家に対する思いはこうだからぜひとも賛同いただきたいというお願いをするべきじゃないのかなって。黙って待ってても恐らく金丸家と同じようになるんじゃないかって思ってるんですよ。

照井町長：

一度はご家族の中でまとまりかけたという経緯もあったんですけども、それがまとまりきらずに破談というか上手くいかなかったということもありますので、財産に関わることは慎重にやらなければならないのかなと思っていて、決して対話を閉ざしているわけではなくて、しっかり保存していかなければならないという立場の中で財産をどう譲り受けるかということに対話していかないといけないのかなと思っています。高岡委員のお話も踏まえながら、今後の対応も考えていきたいと思います。ありがとうございます。

給食センターの話、コッペパンしか出ないというのは献立かなと思うんですけど、パンを作っているわけではなく仕入れているので前と同じ部分も出てくるのかなと思いますが、今のご意見を踏まえながら献立をどう立てているのかというのも考えていかなきゃなと思います。今日、北中の校長先生と話して少し味が薄いんじゃないかなというご意見もありますので、子ども達にはどんな給食がいいかというのを給食センターの中で議論してやっていきたいと思います。もう一つ米飯で米の話なんですけど、地産地消は非常に大事だと思う一方で、例えば過去に江差町出身の方が東京で社長をやっていて、その社員食堂で江差の米を使いたい、江差産をくれないかとの話をいただきました。その時にやり取りをしたんですけど、江差産は出せない、道南産でしか出せないというお話でした。それは農協が合併をしているので江差産だけを集めて出荷することというのは難しいというようなお話を伺ってですね、結局それは道南産ということをお願いしたという経緯があります。地産地消というのが大事であるとは思っていますし、それは決して給食に限らずいろいろな消費行動について考えていかなければいけないと思っています。ただその一方で江差は周りの町の皆さんに買って貰っているというがあるので、他の町と比べると比較的、域外に出る部分も多いですけど域内に入ってくる消費行動も多いのかなと思っています。ただできることはしっかり、地域の物は地域でというスタンスの下、給食でも今のご意見を踏まえながら総合的に判断していきたいと思います。ありがとうございます。

高岡委員：

需要と供給の量のバランスっていうのもあると思うので、例えばアスパラが最盛期を迎える、子ども達の給食に地元のアスパラに限られた期間だけでも出るとか、全部っていう訳じゃなくてもそういった中で子ども達に、子ども達が食べるんだったらせつかく田舎にいらんだから孫にうまいもの食わせてやりたいなと思うのが普通だと思うし、地元の味覚えておいて貰いたいなっていう、ふるさとに戻ってこいよという思いです。

照井町長：

ありがとうございます。ちなみに、今日はメニュー何だったんですかと聞いたらチキンとポタージュとパンで、今

日冬至なのにカボチャじゃないんだと、クリスマス優先なんだろうなと思いながら聞いておりました。

外に何かご意見ありませんか。

加澤委員：

小笠原委員の話ありましたよね、お子さんの話。先程の前段階で北海道医療大学との連携事業の話が出てたんですけれども、予算が潤沢にあるなら連携もありかもしれないですけど、やっぱり地元の保育園幼稚園と小学校との連携、それがまず子ども達が違和感なく学校に通えるかどうかというのを、今中学校では小学校に来たりとか北小中とかでは進んでると思うんですけど、やっぱり今まで幼稚園で楽しくやっていた子どもがいきなり学校に来て座って、それは子どもにとってすごいストレスだと思うんですよね。子どものストレスは親のストレスでもあると思うんです。なのでそれを、できるところは身近なところからやっていくのが第一じゃないかなと思います。

それがまず1点目と、2点目が転勤族という話がありましたが、ごめんなさい、私住んでいるところが泊なんですけども、たまたま学校の先生が泊町に住んだんです。その時に子どもさん一人いて二人目も産んだんですけど田舎で良かったって言うんですよ。自然がいっぱいだし、地域のお年寄りにちょっと面倒見て貰えるとかメリットがあったんです。だから田舎っていうところを前面に出して、就学前なのかもしれないけど自然豊かな町で子育てをして貰うって環境づくりが必要だと思うんですよ。転勤してしまうかもしれないけども、自分は小さい時に道南の江差で育ったんだよねってことが子どもの一生の肥やしになると思うので、それが子どもにとって後から影響を及ぼすこともあるんじゃないのかなと思いました。

照井町長：

ありがとうございます。今、加澤委員から2点お話いただきました。幼稚園や保育園から小学校に上がる時のギャップをどう埋めていくのか、幼稚園保育園と学校が連携をしてスムーズに学校に来れるような仕組みづくりが大事ではないかと、お金なくてもそれはできるんじゃないかという意見だったと思います。このご意見をぜひ担当に伝えながら、北小中は中1ギャップをなくす様々な取組が成果を上げているということもありますので、小学校に上がる時の問題をどう解決していくのかという非常に大事な視点だと思いますが、そこは私も抜け落ちていた部分ですので、教育委員会と連携して対策を取れないか、あるいは町民福祉課と連携してそういった対策を取っていくような努力をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

2点目の転勤者に対する環境づくり、住んでみて良かったとご評価いただけているというのは非常にありがたいことだと思っています。そういう声を受け止めて未来につなげていく、特に、そういう体験した方の口コミというのは非常に大事だと思っていますので、そういう環境づくりをしっかりPRする、そして受け入れ態勢を整えるということに力を入れていきたいなと思っています。私も前職新聞記者の時に当時の上司が双子のお子さんの子育てを3年くらい江差でやったんですけども、キティというサークルがあって子ども子育ての悩みを聞いてくれたり、お祭りを子ども達が好きになってしまってお祭りには毎年来たいと言ったりして、3年くらいしか住んでなかったんですけど江差にまた行きたいと思って貰えるようなきっかけ作りにもなりますので、そういう視点からまちづくりを進めていきたいと思っています。貴重なご意見ありがとうございます。

他に何かございませんでしょうか。

長尾学校教育課長：

よろしいですか。大体いい時間になりましたので。

それでは、これもちまして本日の総合教育会議を閉会いたします。みなさん、どうもお疲れ様でした。
ありがとうございました。

(17時23分 終了)